

非パラリンピック種目における 日本選手団の躍進とスポーツ国際開発の可能性： 車いすソフトボール国際大会への参加から

永田真一¹⁾

A Potential of Wheelchair Softball as an International Development through Sport: A Report based on International Games

Shinichi NAGATA¹⁾

今回車いすソフトボールの最高峰の大会である Wheelchair Softball World Series (米国・シカゴ) と車椅子ソフトボール国際交流大会 (日本・大阪) に日本代表強化スタッフ (通訳) として参加してきたので車いすソフトボールの紹介と共に、大会の様子を報告する。

車いすソフトボールとは

1970年代に米国中西部において開発された、米国の国民的スポーツである野球を障がいのある人でも楽しめるようにルールや用具を変容 (アダプテッド) させたスポーツである。現在米国には40程度のチームが全米各地に存在する。日本には2010年ごろ伝来し、現在日本全国に20程度のチームが存在する。

フィールドにいるすべてのプレーヤーが車いすに乗ってプレーする。車いすの機動性を活かすため、一般的な野球やソフトボールで使うような土や芝のフィールドではなく、硬く整地さ

れた場所を使用する (例として、東大阪市立ウィルチェアスポーツコートがある)。使用球は16インチソフトボールであり、一般のソフトボールよりも大きい。バットは一般的なソフトボール用バットを使用する。フィールドにおいて、ファウルラインは150フィート (約46m) と規定されており、比較的外野が広く、車いすの機動特性 (初動が立位よりも遅いこと) による守備範囲の狭さを鑑み、守備は一般的な野球・ソフトボールの9人に加えて外野がもう一人増えた10人である。

公式戦は最大7イニングまでである。全員ワンボール・ワンストライクからの打席となり、ツーストライクからのファウルボールを打つとアウトになる。投球はスローピッチ・ソフトボールと同じく、山なりの投球をしなければならない。また、打席に立つときに、ブレーキのないスポーツ用車いすではバットスイングが難しい選手は、自作のタイヤ止め (図1を参照)

1) 筑波大学体育センター

Sports and Physical Education Center, University of Tsukuba

を使用することが許されている。

また、パラリンピック等で採用されているクラス分け制度が採用されており、各選手は残存身体機能の程度を査定され、格付け（クラス認定）を受ける。クラスに紐づく点数があり、試合に出ている10名の合計得点が21点を超えてはいけないというルールがある。

ルールや歴史についての詳細は日本車椅子ソフトボール協会のHPや現在までに発表されている車椅子ソフトボールの論文等を参照されたい。

Wheelchair Softball World Series 2022 の報告

2022年8月1日から8月8日の日程で、米国シカゴ市郊外で行われたWheelchair Softball World Series 2022年に、日本代表チーム帯同通訳として参加した。日本代表は2012年に有志として参加した後、毎年参加していたが、2020年、2021年はコロナ禍により参加できず、今回3年ぶりの参加であった。筆者は2018年と2019年に日本代表に帯同した経験があり、今回3回目の帯同となる。

Wheelchair Softball World Series 開催については、主催者の立候補・セレクションにより決定する。筆者が日本代表帯同に関わった2018、2019年はミズーリ州カンザスシティを拠点とするMidwest Adaptive Sport、2022年、そして次回の2023年はイリノイ州のLincoln-Way Special Recreation Associationが主催者となっ



図1 打席で使用するタイヤ止め

ている。会場は野球の独立リーグ球場（Ozinga Field）の駐車場で行われた。駐車場で行われる理由は、大会でいくつもの試合を同時進行するために必要な広さのある硬く整地されたフィールドを確保するために最適であるからである。

車いすスポーツの大会においては、選手に身体障がいがあり、一般の輸送方法では対応できないことが多く、チームの輸送が大きな問題となる。今回日本代表チームは、大会主催者が準備してくれた車いす対応のバス（図2を参照）とその運転手をハイヤーした。バスは車いすに乗った人が6名程度、車いすを使わない人が8名程度一緒に乗れるものであり、必要に応じて車いすから固定椅子に移乗し、その人の車いすを折りたたむことにより日本における同類のバスと比べて非常に多くの選手を一度に輸送できるものである。写真で示している車の後部には電動リフトが設置してあり、車いすを降りることなく車に乗ることができる。

MLBのワールドシリーズとは違い、Wheelchair Softball World Seriesは全米からの有志チームが参加することができる上に、ジュニア部門もあり、参加の促進を目的の一つとしていることがうかがえる。また、各チームがなるべく多くの試合ができるように、負けたチームが入るブラケットが設けられている。米国チーム同士の試合を観察していると、試合に勝つことを目指



図2 大会主催者が準備した車いす対応のバス

しているだけでなく、楽しんでプレーする様子が見られた。また、大会が街中の屋外でお行われているということもあり、多くの人の目に触れることができたのは非常に意義深いことであつたと思われる。

今回の日本代表チームは試合3日前に入国し、練習をしてとても良い状態で試合に臨むことができた。大会トーナメントの試合は5戦全勝し、優勝を勝ち取ることができたのである。例年優勝争いまで勝ち残るとということが難しかった経緯があり、優勝という業績は日本の車いすソフトボールでは初めての快挙である。これには米国の他のチームにも大きな驚きを与えた。今回の勝因について日本代表・米国代表選手やコーチが議論していたのは、守備力である。今回の日本代表は送球ミスが少なく、堅実な守備が実施できた。他のチームと比べて圧倒的にミスが少なかったため、不必要な点を与えず、勝利につながつたと考えられる。

今回 Wheelchair Softball World Series において優勝してしまったことにより、日本代表は次回より追われる立場となる。上述したように、米国選手たちが大きなショックを受け、猛練習して臨んでくるであろうと考えられる。2023年に勝てるかが、大きな焦点になるであろう。

車椅子ソフトボール国際交流大会の報告

2022年11月5日から11月6日の日程で東大阪市ウィルチェアスポーツコートにおいて、車いすソフトボール国際交流大会が行われた。当初の予定では米国、日本、ガーナの3カ国の代表チームが参加する予定であつたが、米国におけるインフレーション等の経済状況悪化のため、米国代表の参加が中止になり、ガーナ代表も人数を減らしての参加となつた。

結果的に日本とガーナの二国のみ（チームとしては日本代表、U22代表、クラブチーム選抜、そしてガーナ代表の4チーム）の参加となつた車いすソフトボール国際交流大会であつたが、同日に開催された花園エキスポと呼ばれるイベ

ントの中に、平行して行った車いすスポーツ体験と合わせて組み込まれ、累計約2,000人以上の人に車いすソフトボールを見てもらった。これは特に、車いすソフトボールはパラリンピック種目ではなく、未だ知られていないパラスポーツであることを考えると、とても価値のあることであつたと考えられる。

ところで、ガーナはアフリカにあり、もともと野球の文化のない国である。ガーナチームの代表者によれば、パラスポーツの一つとして4年程度前に車いすソフトボールが伝わつたのであるが、その後ガーナの各地においてチームを発足させたり、コートジボワールやジンバブエなどの近隣のアフリカ諸国における普及活動をしたりして、車いすソフトボールが急速に広まっているという。アフリカにおける地域大会も開催できるようになってきている。今回参加したガーナ選手たちは日本代表選手たちと交流ができ大変な刺激になったと述べており、また、今回初めて国際大会での勝利をおさめることができたこと(図3を参照)が大きな自信になったと述べており、今後の発展が楽しみである。

ガーナ代表の選手やスタッフと議論する機会があつたのだが、そこで話されたガーナにおける車いすソフトボールの重要性は興味深い。ガーナでは障がいのある人への偏見・差別が強く、社会から疎外されている状況であるが、車



図3 車椅子ソフトボール国際交流大会におけるガーナ代表チームと日本クラブチーム選抜の試合

いすソフトボールにおいて障がいのある人とな
い人が一緒に参加することにより、障がいへの
偏見・差別を軽減することができると主張して
いる。特に、障がいの無い人が、障がいのある
人の能力を目の当たりにすることは、現行の社
会ではまれな機会であり、特に重要であると述
べていた。これらの言及はスポーツを通じた国
際開発としての車いすソフトボールの価値を実
感する。

最後に

以上、車いすソフトボールの海外遠征と国内
で行われた国際大会を報告した。パラスポーツ

の一つとして、障がいがある人の選択肢の一つ
であることとして、また、スポーツ国際開発の
可能性として、これからのますますの発展を祈
願する。

文献リスト

車椅子ソフトボール協会, <https://www.jwsa.or.jp/>, 2022.11.15.

東大阪市立ウィルチェアスポーツコート,
<https://hanazono-wheelchair-hos.com/>,
2022.11.15.

Wheelchair Softball World Series, <https://wheelchairsoftballws.com/>, 2022.11.15.